別紙様式1

令和 5 年度　　学 校 評 価 表(最終)

学校名　三原市立深小学校

a 学校教育目標	夢と志を持ち、共に高め合う児童の育成	b 学校経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命 ） 自ら考え行動し、未来を切り拓く児童の育成 【 ビジョン 】（自校の将来像） ふるさとを愛し、活力に満ちた学校

	評価計画					自己評価					改善方策	l 学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	イ	ロ	ハ	コメント
確かな学力の定着	確かな学力の定着と主体的・協働的に学ぶ子どもの育成	基礎学力の定着◎	フォローアップの工夫とドリルの徹底による基礎学力の定着 個のつまずきの把握と個に応じた指導	・国語・算数・理科の単元末テストの期待得点（80点）以上の児童の割合 ・NRTの偏差値平均　昨年度以上 ・児童アンケート：「分かる・できる」「もっと」の項目における肯定的評価の割合	80%	国語 81% 算数 71.4% 理科 66.7% 62.5% 97.6%	国語83.8% 算数78.6% 理科77.5% 62.5% 85.7%	国語 105% 算数 98% 理科 97% 78% 107%	B	単元末テストの期待得点(80点)以上の児童の割合は、国語は目標値の80%に到達していた。算数と理科は目標値に達していなかったが、10月と比較すると、どちらも伸びていた。また、観点別に見ても、継続課題である「思考・判断・表現」で目標値を下回っていた児童も、10月と比較すると、伸びていた。 順序を表す言葉を使って表現させたり、問題を読んで分かったことを図にかいて思考させたりしたことで、問題の意味を正確に把握する力、記述問題で自分の考えを表現する力も、少しずつ伸びてきている。 授業アンケート「分かる・できる」では、児童の肯定的評価は95.2%で、目標値に達していた。しかし、「もっと」では、76.2%で、目標値に達していなかった。	引き続き、問題の意味を正確に把握させるために、必要な情報に下線、問われていることに波線を引かせたり、図にかいて思考させたりする。また、「表現力を高めるカギ言葉」や「順序を表す言葉」の掲示等を活用して、自分の考えを説明させたり、文章等で表現させたりする。そして、解決の必要感や生活との結び付きのある問いの設定を工夫したり、算数科を中心に適用題と振り返りを確実に実施したりすることで、理解度を評価していく。 さらに、語彙力や文章力を伸ばし、学習の理解度を評価するために、毎時間の振り返りを2文以上で書かせ、児童の学習のがんばりを教師が肯定的に評価する。 また、引き続き、フォローアップの時間の内容を精選し、個の実態に合った内容にすることで、基礎学力の定着を図る。	○			人数が少ない分、一人一人が納得できるまで教えてもらえることに感謝している。特に、学習リーダーを中心に授業を進めていくことは、インプット・アウトプットするには良い方法だと思う。 学年が上がるにつれ勉強内容が難しくなると理解できているかどうか自信がない子どもも出てくると思う。そういった不安を取り除けるように、自信につながる学習方法をこれからも探していってもらいたい。 80点以上の児童の割合では、80点未満児童の得点分布状況が分からず気になる。 自分を評価するというのは、私も苦手だが、振り返りながら、また次につなげていってほしい。 宿題を済ませることで満足しているように感じるので、自主的に勉強しようとする気持ちを持たせることが課題である。 理解できていても、それを表現することが苦手のように思う。語彙力を高める工夫が必要である。
		主体的・協働的な学習の推進	学び方の定着と学び合いの充実 目標に沿った課題、まとめ、振り返り授業の実施 ICT機器の効果的な活用	・児童アンケート：「主体性」の項目における肯定的評価の割合 ・教職員アンケート：「主体性」の項目における肯定的評価の割合	85%	95% 75%	85.7% 100%	101% 118%	A	アンケートの「主体性」のBの項目では、児童85.7%、教師100%で、どちらも目標値を上回っていた。 しかし、「主体性」のAの項目では、児童85.7%であったが、教職員20%で、目標値を大幅に下回っていた。児童の姿からも、「自分で計画を立てて最後まで進める」ことに課題がある。目的意識や課題意識をもって、自分で主体的に学ぶことができるように支援していく必要がある。	引き続き、児童間で授業交流を継続して行うことで、他学年の授業から学び方を学び合い、自分達の学び方に生かせるようにする。児童と授業のゴールや見通しを共有していくことで、更なる「課題解決のためのスキル（学び方）」の定着を目指していく。また、個のつまずきに応じた支援を充実させていくことで、児童が、「やってみたい」「できそうかも」「なぜそうなるのだろう」等の児童の主体的・協働的に学んでいく姿を引き出し、その姿を価値付けていく。	○			
		思考力・判断力・表現力の向上	筋道立てて伝え合う活動の充実 ・事柄の順序 ・自分の考えと根拠を明確にした表現 ・比べたり、関連付けたりして考え、伝える	・児童アンケート：「思考力・判断力」「表現力」の項目における肯定的評価の割合 ・教職員アンケート：「思考力・判断力」「表現力」の項目における肯定的評価の割合	80%	95% 62.5%	83.4% 70%	104% 88%	B	児童アンケートでは、「思考力・判断力」81%、「表現力」90.5%で、目標値を上回っていた。教職員アンケートでは、「思考力・判断力」60%、「表現力」80%で、「思考力・判断力」は目標値を下回っていた。「思考力・判断力」、「表現力」のAの項目では、教職員アンケートで50%に到達しておらず、アンケートの教員評価と児童の自己評価の数値に大きくズレが見られた。目指す姿を児童と共有して取組を進めたが、考えを練り合ったり、相手意識をもって説明したりすることに課題がある。	引き続き、児童同士で学び合い、考えを練り合いながら深め、児童自身が「思考・判断」し、自分達で高めていける授業づくりをしていく。また、事柄の順序の言葉と根拠を明確にして思考・判断・表現させることで、児童１人１人の「わかる・できる・もっと」を引き出す授業づくりにつなげていく。 実態に応じて、異学年や他校、地域の方との交流等で表現の場を設定し、相手意識・目的意識をもって、自分の考えと根拠を明確にして表現できる経験を積み重ねていく。	○			
徳育と基礎体力の充実	高い自己指導能力を持ち、健康で自律的な子どもの育成	くらしガイドの徹底	「深の子の一日」をもとに、児童会、各委員会を中心とした課題発見・目標設定・解決への取組・振り返りによる重点目標（挨拶・返事、靴揃え、だまって掃除、廊下歩行）の徹底	・児童及び教職員アンケートによる肯定的評価の割合	80%	児童 89.3% 教職員 46.4%	児童 78.6% 教職員 46.4%	児童 98% 教職員 58%	B	「挨拶・返事」については、児童アンケート100%、教職員アンケート71.4%であった。また、「靴揃え」については、各クラスで取組を行ったこともあり、児童アンケート、教職員アンケート共に95%以上と肯定的評価が高かった。 「だまって掃除」については、委員会で取組を行ったが、持続することが難しく、児童アンケート81%、教職員アンケート14.3%で、大きなズレがあった。また、「廊下歩行」についても、児童アンケート38.1%、教職員アンケート0%と目標値を大きく下回っていた。	引き続き、「深の子の一日」を活用して、学期末に振り返りを行うことで、児童自身に課題意識をもたせ、改善するためにどうしたら良いか考えさせていく。 また、児童会、委員会を中心に4つの項目について、引き続き、取組を行っていく。特に、「だまって掃除」と「廊下歩行」については、定期的に取組を行うと共に、教職員も声掛けを行い、継続できるようにしていく。	○			体力つくりのためのサーキットトレーニングは継続してほしい。 「深小出身の子は運動能力が高い。」と言われることがあり、うれしい。柔軟運動は、全てにつながることなので、重点的に取り組む必要がある。 廊下歩行は、児童の実態によって適切な対策を見つける必要があると思う。 お互いを認め合うという点は、他の場面でも、お互いを尊重することができていると感じる。 おしゃべりが過ぎるのは、仲が良いことなのだが、集中力は大事なので、メリハリのある生活が送れるようになると良い。 児童会・委員会で決めた4つの項目を継続できるように、考える、案を出す、取り組む、評価するの繰り返しの中から気づきや学びがあると良いと思う。 月に一度でも良いので、時間を割いてしっかり掃除する時間を設けると良い。
		自己肯定感の向上	お互いのよさを認め合える活動の推進 （児童会活動、学級活動、係活動、縦割り班活動等）	・Q-Uによる学級生活満足群の児童の割合 ・児童アンケート：「自分にはよいところがある」の項目における肯定的評価の割合	80%	85% 90.5%	81% 85.7%	101% 107%	A	前回の結果より少し下がっていたが、学級生活満足群の児童の割合、児童アンケートの肯定的評価の割合のどちらにおいても、目標値を達成することができた。始業式、終業式の時に、全児童が、全校の前で発表する活動や各クラスでの「いいところみつけ」等、自分の思いを表現したり、教職員や他の児童に認めてもらったりする活動に取り組んだ結果だと考える。 また、気になる児童がいた場合、声掛けを行ったり、話を聞いたりする等、全教職員で共有しながら児童の実態を把握し、指導した。	引き続き、全校の前で表現する機会を設けたり、児童の実態に合わせて月に一度、SST朝会を実施することで、お互いの良さを認め合える活動に取り組んでいく。 また、日々の生活の中で気になる児童については、暮会等に、継続的に支援が必要な児童については学期ごとに、全教職員で共有し、指導に当たっていく。	○			
		運動の楽しさの実感と体力・運動能力の向上	体育朝会の実施、課題種目の改善運動の実施 振り返りカード・自己目標設定・記録更新への挑戦	・新体力テストの課題種目の自己記録更新児童の割合 ・児童アンケート：「運動が好き」の項目における肯定的評価の割合	85%	46.6% 95.2%	68.3% 85.7%	80% 101%	B	新体力テストについては、課題種目に設定した3つを再度実施した。その結果、記録が伸びていた児童もいたが、「上体起こし」75%、「ソフトボール投げ」75%、「長座体前屈」55%で、どの種目も目標値を達成することができなかった。特に、「長座体前屈」に課題がある。 児童アンケートについては、前回の結果より少し下がっていたが、目標値は達成することができた。	体育や体育朝会で柔軟運動を取り入れると共に、引き続き、サーキットトレーニングを行い、学期の終わりに、「サーキットチャレンジカード」で自己を振り返らせたり、目標をもたせたりすることで、自己記録を更新できるように取り組んでいく。 また、外遊びの推奨や児童会による集団遊びを計画することで、運動の楽しさを味わわせる。	○			
信頼される学校の構築	保護者や地域からの信頼に応える学校づくり	地域の教育力の活用	各学年、地域の素材を活用した探究的な学習を実施 地域貢献活動の計画・実施	・児童アンケート：「自分が住んでいる地域が好き」の項目における肯定的評価の割合 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の項目における肯定的評価の割合	85%	95% 90.4%	95% 76.2%	112% 90%	B	「自分が住んでいる地域が好き」のアンケートでは、９５%の児童が肯定的評価であった。2学期以降、ふれあい参観日、深町の特産物の栽培、サロン深っかふかとの交流等、地域に関わる活動を行い、課題解決学習を進め、地域に積極的に関わってきた。1・2年生は、深町コミュニティーホームの見学とサロン深っかふかの方と交流を行った。3年生は、育てたサトウキビから黒蜜を作ったり、黒蜜を使った料理に挑戦したりして学習を進めている。また、5・6年生は、アンケートの結果を発表したり、ふれあい活動を行ったりすることができた。 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」のアンケートでは、７６．２%と10月と比べると下がっていた。	今年度は、ふれあい参観日の学習発表や活動を児童主体で行い、郷土愛や地域貢献の意識を育みながら、地域と関わることができる取組を進めていくことができた。 今後も、児童が実感をもって学習に取り組むことができるように、地域に出向き、地域の方とふれ合い、見学させていただく中で、様々な学びをすることができるように、地域と連携を図っていく。そのためにも、深小版人材バンク等を作成し、地域の人・もの・ことを活用した探究的な学習を計画・実施していく。 また、「深町のために、どんなことがしたいか」の回答として、「元気に挨拶」「ゴミ拾い等の清掃活動」「地域の方とふれ合う活動」等があり、全ての児童が、「深町のために、したいこと」を1つ以上回答していた。児童の思いを大切にしながら、今後の教育活動に生かしていく。	○			子どもが少ない深町で地域の方との関わりがたくさんあるということは、本当にありがたいことだと思う。人との関わり方が苦手な子どももいると思うが、そういうところも克服できるきっかけになるかもしれない。 ふれあい参観日では、児童主体で、地域の方達との交流ができた。今までにない企画で、とても充実した日だった。 家でも「サロン深っかふか」の話をよく聞く。どうすれば、皆と楽しめるか、試行錯誤している姿を頼もしく聞いている。 「何をすべきか考えることがある」が下がっているのが気になるが、実態としては、とても良く地域に貢献してくれていると感じる。これからは、深町全体で何かができれば良いと思う。 HPアクセス数も指標としては、大事なポイントだと思う。 すぐーる等で子どもの様子を見られるのは有り難いが、もっとたくさんのことを配信していただけると子どもとの話もできて嬉しい。 教職員の皆さんにとって、ICT機器が有効活用されている。効率化につながっているようで良いことだと思う。 児童のICTの技能が上がっていて関心するが、文字を書く能力がとても下がっているように感じる。
		積極的な情報発信と不祥事ゼロ	学校の様子や教育活動について情報発信 不祥事防止研修の工夫	・学校の様子や学習内容がわかる情報発信 各種便り発行　回数　月１回以上 HP更新　　回数　１２回以上 地域への学習内容の発信　各学級１回以上 ・不祥事防止研修の実施率 ・教職員アンケート：「自分も不祥事を起こしうる危機感をもっている」の項目における自己評価の割合	100%	100% 100% 100% 100% 100%	100% 100% 100% 100% 100%	100% 100% 100% 100% 100%	A	学校だより、保健だより、すぐーるでの配信等、月１回以上の便りを発行することができた。また、HPについても、トップページにトピックスを掲載する等、これまでに、月１回以上更新することができた。 不祥事防止研修の実施も、計画に沿って確実に行うことができた。今年度は、「すべての三原市民の人権が尊重されるまちづくり条例」が10月１日に施行されたこともあり、講師を招いて研修を行った。 全職員が、「自分も起こしうる危機感」をもって、児童の指導等に当たることができた。	学校だより・すぐーる・HPを活用して、引き続き、学校の様子を伝えるために、情報発信を積極的に行う。 今年度は、サロン深っかっふかで交流をさせていただいたり、ふれあい参観日を行ったりすることで、地域の方にも児童の様子を見ていただくことができた。今後も、積極的に地域と関わり、情報を発信することで、地域に開かれた学校づくりを進めていく。 不祥事防止研修については、不祥事を起こさない、起こさせないように、「自らも過ちを犯しうる存在である」ということを常に認識しながら、危機感を抱いて研修を受けることができるように、職員一人一人が研修を企画・実施したり、実態に合わせた研修内容の工夫を行ったりする。	○			
		業務改善の推進	児童と向き合う時間の確保 長時間勤務の削減	・教職員アンケート：「児童と向き合う時間が確保されていると感じる」の項目における肯定的評価の割合 ・時間外勤務が月４５時間未満の教職員の割合	85% 100%	83% 94%	85.7% 95.2%	101% 95%	B	「児童と向き合う時間が確保されていると感じる」教職員は８５．７％、時間外勤務が月４５時間未満の教職員は９５．２％であった。中間に比べると、時間外勤務が減り、授業準備・学級事務等の時間が確保できるようになったため、以前に比べると、改善していると考える。	業務遂行の時間を確保するため、見通しをもった計画を立て、タイムマネジメントを行ったり、すぐーるやクロームブックなどICT機器を有効活用した取組を行ったりする。 今後も、超過勤務が月４５時間以内になるように、業務改善のアイデアを出し合いながら、職員全員の意識を高め、児童と向き合う時間の確保を行っていく。	○			

◎本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価】
A: 100≦(目標達成)
B: 80≦(ほぼ達成)＜100
C: 60≦(もう少し)＜80
D: (できていない)＜60

【l:学校関係者評価】
イ：自己評価は適正である。
ロ：わからない。
ハ: 自己評価は適正でない。